idea

ニュースレター「イデア」

2019. 8

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

1｜二言三言｜　一関市社会福祉協議会　菅原敏さん
　　いちのせき生活困窮者自立相談支援センター　佐藤タ子さん
3｜団体紹介｜　一関地方森林組合室根婦人部　はなみずきの会
5｜地域紹介｜　真滝八区自治会（一関）
7｜企業紹介｜　株式会社　永盛堂（東山）
8｜博識杜のフクロウ博士｜　地域協働とは
9｜センターの自由研究｜　市内で1番段数が多い石段はどこだ！？

今月の表紙

　こちらは「市内で1番段数が多い石段」として紙面でご紹介していますが、どこにある石段かご存知でしょうか？石段に関わった偉人についても併せてご紹介していますのでぜひご覧ください。

134 / 116,167

菅原 敏　佐藤 夕子

菅原敏さん（左の写真）
平成元年に一関市社会福祉協議会に入社。平成26年に地域福祉課長に就任し、生活困窮をはじめ地域福祉全般の取り組みに携わっています。

佐藤夕子さん
平成28年に相談支援員に就任。暮らしの悩み事や自立した生活をしたいという方、一人ひとりに寄り添った支援をしています。

第62回

一関市社会福祉協議会 地域福祉課長　菅原敏さん
いちのせき生活困窮者自立相談支援センター 相談支援員　佐藤夕子さん
×　いちのせき市民活動センター 主任　畠山信禎

生活困窮への支援のあり方を考える
～困った時に「困った」と言える地域に～

最近、耳にすることが増えた「生活困窮」について、自治体から一関市社会福祉協議会が業務委託を受けて開設している「生活困窮者自立相談支援センター」で支援を行っているお2人にお話を伺いました。

畠山　まず、初歩的な質問ですが、「生活保護」と「生活困窮」の違いは何でしょうか？

菅原　元々は「生活保護制度」（以下「生保」）があり、「生活困窮者自立支援制度」（以下「生活困窮」）はその後につくられた制度です。

生保はどちらかといえば経済的に困窮している方に最低限度の生活を保障する制度です。

生活困窮は、経済的な支援というよりは、就職して給料を貰えるように支援したり、制度を利用して生活費を確保しながら自立を目指すもので、相談支援の出口と言われるのが「就労」ですが、それだけでは解決できないので様々な取り組みを使い、その人の「自立」や「生活」を支援します。最近は、社会的孤立に関する相談も多いので、役割としては「経済的な自立」と「社会的孤立をなくす」の2つでしょうか。

佐藤　中には、収入はあるけど生活がうまく回っていない方もいるわけです。そういう方とは、話しながら収支状況を確認し、課題を整理してお金の使い方を見直したり、利用できる制度やサービスを紹介したり、関係機関に繋いだり。場合によっては生保に繋ぐこともあります。

相談は基本窓口で行いますが、窓口まで来られない方にはこちらから相談者を訪問する「アウトリーチ」も行っていますよ。

畠山　生活困窮者の窓口は、市内ではここ1か所だけですか？

菅原　地域包括支援センターなど、同じ役割を持っている事業所はほかにもありますが、色濃く出てきたのがこの生活困窮者自立支援センターなのかな。その目的でつくられた機関なので。

ここには専任の相談支援員が3人、主任相談支援員が1人、センター長が1人の計5人が配置されていますが、主任相談支援員とセンター長の2人はほかの業務と兼務しているので、実質は管轄地域

の一関市・平泉町を3人の専任相談支援員が担当している状態です。

畠山　たった3人だけで担当しているんですね。毎月、何人くらいの方から相談を受けているんですか？

佐藤　平均で15人くらいですね。

畠山　相談にいらっしゃる方は、どんな年代の方が多いんですか？

佐藤　今年度でいうと、40～50代の方が全体の半分以上を占めています。仕事がないとか、働いていても収入が少なくて生活費が足りないとか。次いで多いのが65歳以上の方ですね。家族が自分の年金を頼りに生活していてお金が足りないというケースが多いです。

畠山　家族の生活費を年金で賄い、お金が足りなくなっているんですね。

佐藤　そういった家族関係の相談は多いですよ。離れて暮らす兄妹・親類からお金の援助を求められていたり、家庭内の関係が上手くいっていないとか。

　また、親戚縁者の冠婚葬祭を気にするあまり自分の家計を顧みずにお金を出す方などは、食費や光熱水費の優先順位を低くしてしまうんですよね。65歳以上の方は、特にそういう意識が強いので。改善するには今までの意識を変える必要があると感じますが、それは簡単なことではありませんよ。

菅原　困窮の出口はだいたい就労なんですが、65歳以上の方に「働きましょう」でもないですよね。75歳以上で元気に働く方もいますが、実際は働けない方の方が多いですよ。

佐藤　そうなると生保を紹介することになりますが、生保を受けるためには車を持てなくなる場合があります。福祉事務所が判断しますが、車の保有は原則認められていないんですよ。

菅原　場所によっては車がないことは死活問題ですから。皆さん車を手放したくないので、単純には生保を受けたくない実態もあります。地域で起きている交通の問題は、こういうことにも関わってくるんですね。実際のところ、県南は岩手県の他のエリアと比べて生保の受給率も低く、一関市でも受給者が増えていないという状況だと聞いています。

畠山　支援をしていて課題だと感じていることはありますか？

菅原　「制度の狭間の支援」でしょうか。生保も生活困窮も法律に基づいた支援なのですが、生活に困っているけれど制度やサービスの対象にならない方もいます。そこは「社会資源の開発」といって、私達が受け皿になる事業を新たにつくったり、どうにかして制度に繋ぐというやり方になりますが、なかなか難しいですね。

　また、最近感じているのは「繋がりを広げていかないと支援にならない」ということです。関係機関に繋いだら私達は手を放すという「バトン型」の支援ではなく、手を放さず、一部が繋がって広がっていく「のりしろで繋がる支援」というか。関係機関との繋がりはもちろん、地域住民の方ともです。相談者さんが生活を送るには地域との繋がりが不可欠なので、地域住民の方々にも「地域にはこんな方がいる」ということをわかっていてほしいですし、その方と関わりをもてるようになればと。

畠山　相談者ご本人に「周りに困窮者だと知られたくない」という気持ちもあるかと思いますが、いつかは地域の方にも協力してもらわなければならないということはあるかもしれませんね。

菅原　困った時に「困った」と言えて、周りでその人の自立を助けてあげられる環境がつくれればと。地域の力ってすごいですから。地域協働体でも色々な地域の課題を取り上げて良くしようと取り組んでいますが、私達と連携したり、一緒に何かやらせていただく形があるのではないかと思っています。

いちのせき
生活困窮者自立相談支援センター
住所　一関市城内1-36
（一関市総合福祉センター内）
電話　0191-23-6020

団体紹介

林業に携わり続けるための楽しみづくり

一関地方森林組合室根婦人部
はなみずきの会

昭和 56 年８月設立。林業に携わる・携わりたい女性ために、林業の研修等のみならず、中間収入を得るための事業にも積極的に取り組んでいます。

〒 029-1211 室根町津谷川字清水 31-1
TEL 0191-65-2055（事務局 三浦）

一関地方森林組合室根婦人部 はなみずきの会

母体は県内第１号の森林組合婦人部

「室根林業」という言葉があったと言われるほど林業が盛んだった室根。昭和50年代後半、林業の一環として原木シイタケの生産にも力を入れており、男性陣だけではなく、女性たちも林業（シイタケ生産含む）に参画しようということで、昭和56年８月に「室根村森林組合婦人部（前身）」が発足しました。

森林組合の婦人部は全国的にも珍しく、県内では第１号。研修への参加だけでなく、実際に枝打ち作業や間伐調査などにも参加してきました。

平成４年には、より活動の幅を広げるべく、団体名を「はなみずきの会」に変更し、会員も再編成。前身時代から数えれば、38年以上も活動を続け、なおかつ新たな事業にも挑戦を続ける同会の会長、副会長、事務局の３人のみなさんにお話しを伺いました。

現場作業は商品開発のためのワクワクタイム

「ただ林業に関する作業をしていても楽しくないけど、作業中に見つけた『何か』で製品を作れると思うと、楽しくなるでしょ」と笑顔を見せる３人。当初は林業に直接関わる活動をしていた同会ですが、活動を長続きさせるためには楽しみが必要だという考えから、様々な商品開発や製品づくりに取り組み始めました。

最初に取り組んだのがドライフラワーを使ったリース作り。杉の木に絡まった藤などの蔓を切る作業をする中で、蔓細工に興味を持ったのだとか。

同様に、下刈り作業などの際に目につく「どくだみ」に、「これだけたくさんあるのだから、何かに活かせないか」と会員から声があがり、どくだみを使った商品開発に乗り出します。研究や試作を重ね、できあがったのが「どくだみ水」で、化粧水のように使用するとニキビ等の肌荒れが良くな

gallery -

積極的に視察研修

桜の葉の塩漬けの研修として静岡まで向かった同会。多くの葉を収穫するために密植栽培で低木に管理する方法を学びました。

きのこまんじゅう

同会の現在の人気商品が「きのこまんじゅう」。11月に開催される「森林の収穫祭」でのみ食べることができる幻のメニューです。

ると口コミで広まり、九州からも譲って欲しいという声が上がるようになったとか。

その他、「山の整備をしながら商品ができて、それがお金になったら」という考えのもと、ヤマブドウの加工品や竹細工など、地域資源を活用した商品開発を行い、それらが活動のマンネリ化防止にも繋がっていきました。

「交流」と「やりがい」を生みだす「もりもり市」

会の活動を続ける原動力には「もりもり市」もあげられます。平成9年、当時の森林組合室根支所敷地内に森林組合室根青年部が地元の木を使ったログハウスを建設しました。このログハウスの活用策の1つとしてスタートしたのが、はなみずきの会が主催する「もりもり市」でした。毎月第3土曜日、同会が開発した商品や、会員が育てた農産物、遊休品などを持ち寄っての開催でしたが、「市」としての賑わいはもちろん、地域のお年寄りの交流や情報交換の場としても機能し、約20年もの間続けられてきました。

平成26年に森林組合が広域合併したことで、平成28年に室根支所は閉鎖となり、拠点としてきたログハウスも解体に。その後は1年に1回、一関森林組合事業本部が主催する「森林の収穫祭」内での開催のみになってしまった「もりもり市」。地域からも復活を待ち望む声が多くあり、「もりもり市」の復活が同会の目下の目標となっています。

そして復活のための活動として現在取り組んでいるのが、これまでの商品のリニューアルと新商品の開発です。一関農林振興センター（県）の指導を元に女性農林漁業者育成事業に応募。見事採択され、林業における「中間収入」を得ることができる事業として、桜の塩漬けと、苔を使った商品開発に向けて動き出しました。

例えば桜の葉の塩漬け。和菓子等で使用される桜の葉は中国産が多いという現状を受け、オオシマザクラを25本植栽。提供先となる和菓子店は決まっているため、2～3年以内の出荷を目標に研修等を重ねています。

「農家の嫁はなかなか外に出られないのよ。どうにかして世の中と関わりたい、その一心だった」と当時を振り返りますが、お嫁さんとしての制約がなくなった今でも積極的に活動するのは「お客さんに喜んでもらえるのが嬉しいから」と終始楽しそうに話してくれた3人。

根底にあるのは林業なので、「林業に興味のある女性は誰でも参加できます。林業に関する研修会もできますよ」とのこと。林業に楽しく関わっていける女性が増えるよう、同会の挑戦は続きます。

活動のモットーは？

会長

千葉三千江（ちばみちえ）さん

発足当初からのメンバーで、小菊栽培の傍ら林業にも従事。数々の料理コンテストで賞をとる料理の技を会の活動（加工品開発等）にも活かしています。

事務局

三浦日出子（みうらひでこ）さん

元森林組合職員で、同会の担当となったことで活動に関わるように。退職後は純粋なメンバーとして会に参加、職歴を活かして会を支えます。

- Photo

蔓細工と苔製品

森林整備としての蔓切作業をきっかけに始めた蔓細工は現在でも続けています。新たな事業としての苔製品は目下研究中。

今はなきログハウス

「もりもり市」を開催していたのがこのログハウス。惜しまれつつの解体でした。次なる拠点候補情報を随時募集しています！

真滝八区自治会

ＪＲ大船渡線真滝駅の東に位置し、滝沢小学校、滝沢市民センターなど人が集まる施設が集積している同自治会。およそ 150 世帯 440 人が暮らしており、3 つの専門部（教育文化部、社会福祉部、体育厚生部）や自主防災会などを組織しています。

左の写真：昨年の滝沢地区民大運動会での八区チーム

為せば成る、為さねば成らぬ何事も（上杉鷹山）

一関 真滝八区自治会

地域に根付く様々な協力の形

今回お話を伺ったのは真滝八区自治会（以下「八区」）で共に2期3年目を迎えた会長の渡辺一男さん、副会長の小野寺司さんのお二方です。

地域の特徴として「協力的な方が多い」と話す渡辺さん。例えば平成6年に完成、13年に増築し、八区の活動拠点となっている真滝八区ふれあいセンターは、その建設費用の多くを住民の協力で賄ったのだとか。さらに清掃当番も各班の輪番制とし、中学生も年2回の奉仕活動という形でそれぞれ協力しています。

また、新年会も第2部はアルコールも入る比較的一般的なスタイルですが、第1部には餅つきとみずき団子づくりで子ども達も参加します。ＰＴＡと協力し、新年会と子ども会の冬休み反省会の日程を合わせる工夫をしたことで、新年会が世代間交流の場にもなっています。

支援物資をもって高田に駆け付けたあの日

「挨拶などを通じて子どもたちを見守り大事にしていく地域にしたい」と語るのは小野寺さん。少子化が進む中、滝沢の中では比較的子どもの数が多い八区は、エリア内に滝沢小学校を擁していることもあり、前述の新年会以外にも、日頃から毎週木曜日の放課後子ども教室や、今年4月から新設された滝沢児童クラブなどとも連携しながら、見守り、健全育成を図っています。

また、平成20年に結成された自主防災会にも力を入れており、総合防災セミナーを毎年開催。内容も消防署の方と相談しながらできるだけ実践的にアレンジし、3年に1度はＡＥＤ訓練も取り入れています。同時に行われる炊き出し訓練でも具や海苔がない状況を想定しシンプルな塩むすびにするなど、「いざ」に備える気持ちを喚起する工夫が施されています。

gallery -

スポーツ吹き矢大会

自治会の活動拠点である真滝八区ふれあいセンターで行われた軽スポーツ大会。この日はスポーツ吹き矢を楽しみました。

ごみの出し方出前講座

身近なテーマを選ぶことで、大勢の参加があったとのこと。ごみのマナーに対する住民の皆さんの意識の高さが伺えます。

「東日本大震災の時、当時の会長ら八区の有志が地域から支援物資を集めてすぐに陸前高田に届けに走りました。自分が行ったわけではないが強く印象に残っています」と渡辺さんが語るあの日のエピソードは、八区にある老人ホームとの合同防災訓練や、滝沢地域振興協議会（地域協働体）の自主防災部会との連携など、広がりを見せる現在の自主防災会の動きと、何か1本の線で繋がっているようにも感じられます。

縦と横の役割分担

渡辺さんは八区の課題として「班の世帯数や広さによる草刈りなどの負担」「数年前までPTA主催で実施していた盆踊りの再開」「空き家が増えてきたことによる（特に防犯上の）問題」などを挙げます。時代や取り巻く環境の変化と向き合いつつ、近隣の班同士での日常の支え合い。自治会単位で取り組む交流・環境整備・見守り。自治会や行政区単位を超えて滝沢地域振興協議会で考えるべきもの。課題の性質に応じた役割分担も必要になってくるのではないかと考えています。

また、定期的に自治会の役員会も開催（昨年度は7回）。役員の中には現役で仕事をしている方もいることから、できるだけ参加しやすいようにと土曜夜の開催にしており、参加率は8割にもなるとのこと。行政区長を兼務する渡辺さんは「ご多分に漏れず充て職も多く、代理を立てられないこともしばしば。とにかくせわしない」と若干のぼやきを入れながらも、だからこそ役員会などで情報や課題を共有し、話し合う機会を持つことで「会長だけが頑張っているという雰囲気ではないようにしたい」と期待を込めます。

「班・自治会・協働体」という縦の糸と「自治会内の役員・住民」という横の糸。縦横それぞれの役割分担が整理、見直され、そして連携により織りなされた地域。渡辺さんはそんな地域づくりを模索します。

「一生懸命」と「為せば成る」

お二方の座右の銘。「地域づくりにはみんなの協力が必要」と話す小野寺さんは実直な人柄そのままに「一生懸命」。一方、自身4期8年事務局を務めた経験も踏まえ「役割を分かち合いましょう」という渡辺さんが選んだ上杉鷹山の句は「～成らぬは人の為さぬなりけり」と続きます。その教訓を胸に奮闘する1人の会長の姿が、今日も八区のどこかで見られることでしょう。

Q.地域づくりに必要なことは？

自治会長

渡辺一男（わたなべかずお）さん

4期8年にわたる自治会事務局を経て、自治会長に就任して2期3年目を迎える。「忙しい」を超えて「せわしない」といいながら、自治会運営に奮闘の毎日。

副会長

小野寺 司（おのでらつかさ）さん

新会長選出にあたり「渡辺君しかいない」と推薦。小野寺さん自身もかつて会計として自治会を支えてきた経験があり、渡辺会長就任と同時に副会長就任。会長を「強力」にサポート。

- Photo

新年会

PTAと共催し、子どもも参加する珍しい新年会。子ども会行事と新年会の日程を合わせる工夫が世代間交流の場を生んでいます。

総合防災セミナー

毎年消防署の協力を得て内容を検討する総合防災セミナー。煙訓練、炊き出しなど実践的な取り組みのほか、AED訓練も3年に1回は実施。

企業紹介

東山

株式会社　永盛堂（えいせいどう）

東山町長坂の商店街で冠婚葬祭業を営む「株式会社 永盛堂」は、昭和 51 年に創業し、現在は同店舗のほか、市民斎場「メモリアルホール 永盛堂」、一関市川崎町に川崎店と永盛堂会館「かわさき」の４施設を運営しています。戦前は、同所で和菓子屋（店名「永盛堂」）を経営していましたが、戦後はシャッターを閉じる形に。その後、現専務取締役である鈴木隆さんの父が「これからの時代に必要で地域に役立つ仕事を」と葬儀会社を起業し、できるだけ地域との関わりを明るいものにという想いも込め、結婚式などの各種御祝事のフラワーギフトも取り扱う「フラワーショップ花咲（はなさき）」も展開しています。

異業種との交流を大切にし、地域の賑わいを共につくる

「故人との思い出を共有する場」のお手伝い

「故人を送り出すことは、私達が生きていく上で切り離せないものがあります」と語るのは、株式会社 永盛堂の専務取締役 鈴木隆さんです。「いずれは父の跡を継ぐ」という想いで進学を機に地元を離れますが、平成14年に当時の代表取締役社長（父）が体調を崩したことで、19歳で本格的に葬儀会社の運営に携わることとなりました。

普段の生活の中で葬儀会社との関わりは少ないものですが、一般的に病院からご自宅もしくは会館まで故人の搬送から始まり、祭壇設置（自宅葬の場合）、納棺・火葬・通夜・葬儀を経て、弔中払いと、当地方では「なのかづめ」と表現しますが、「最近では多くて５日間をかけて故人を偲び弔い、約９割は会館を利用している」とう現状の一方、「まだまだ本家や親類付き合いが深く大切にしている地域。そのため、本家などの親類が主体となって執り行い、家々の習わしを尊重し、仏式・神式にも対応しながら、我々はそのお手伝いやアドバイスをするという形。故人を弔うために親戚・家族一同が集うことは、故人の思い出を共有し語り合う、一つの交流の場なのではないか」と葬儀への想いを鈴木さんは語ります。

各種団体に所属することで生まれる協力の和

鈴木さんは家業の傍ら、一関商工会議所青年部や、川崎岩手ライオンズクラブ、公益社団法人一関地区法人会など各種団体の会員となり様々な業種や地域の方との交流を大切にしています。それぞれの団体で目的を持ち活動していますが、軸にあるのは「地域を想う心」と鈴木さん。商工会では商店街の空き店舗の活用について話し合いを進めており「改めて自分が生まれ育った商店街の課題と向き合い、一商店だけではなく団結して地域を活性化していくことの大切さに気付かされた」と語ります。特に、「サマーフェスティバル in ながさか」（たいしたもんだ長坂みらい塾主催）について、「昔は盆踊り大会など地域総出のイベントがありましたが、一時期そういった場がなくなった時がありました。盆踊りの復活と共に、地域の賑わいを取り戻そうと始めた事業で、今年で３回目の開催です。私達、一関商工会議所青年部東山支部では屋台や子ども向けのゲームを企画していますが、東山にこんなに人がいるのか？と思うほど多くの方で賑わうイベントです」と続けます。

最後に、鈴木さんは今後について「葬儀屋というとなかなか店に入りにくいイメージがあるかもしれませんが、当社はフラワーショップも運営しているので比較的入りやすい店舗構造にしています。地元ではお茶飲みに来店される方もいらっしゃいますし、当店のコーヒーは美味しいと評判もいただいています。堅苦しい雰囲気にせず、地域の方が訪れやすい場として展開していきたいですね」と語っていただきました。

1 店舗の説明をしてくださる、専務取締役　鈴木隆さん
2 まもなくお盆の季節。盆飾り「提灯」が並びます
3 店舗入り口では色鮮やかな花々が出迎えてくれます

DATA
〒029-0302 一関市東山町長坂字町 77
TEL：0191-47-3353
FAX：0191-47-3399

今月のテーマ

地域協働とは？

「共同」「協同」「協働」の違い

地域づくりやまちづくりの現場をはじめ様々な分野で積極的に使われる言葉があります。
それは・・・「協働」・・・です。
「市民と行政が協働して取り組む」という使われ方をしたり、「メーカーが原材料の生産者と『協働契約』を結んで品質を確保している」という使い方をしたりと多種多様ですが、ここに出てくる協働とは見慣れない言葉で、「漢字の間違いじゃないの？」と思う方もいるでしょう。協働の考え方は昔からあったにせよ、辞書に載るようになったのは最近のことで、比較的新しい言葉といえます。

「共同」「協同」「協働」は、音が同じで意味も似ているので、紛れやすい言葉です。このうち、最も目に触れるのが「共同」、次に「協同」です。近年、「官民協働」などの形でよく使われるようになったので「協働」も目にするようになりました。下記のように、**音は一緒でも意味が異なる「きょうどう」**について整理してみます。

	共　同	協　同	協　働
意味	複数の人や団体が、同じ目的のために一緒に事を行うこと。	互いに協力し合うこと。	同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと。
補足	**共同生活**や**共同経営**と表現してみるとイメージしやすいですね。	「協同組合」という組織がありますが、これは組合員や消費者が事業や生活の改善を図るために、**支え合い、助け合って**運営することを目的とした団体で、**互いに協力し合う**というとイメージがしやすいですね。	協同と似ていますが、「協働」はそれぞれの得意分野を活かしながら一致団結し、力を合わせて物事を行うことを表します。

なぜ、地域づくりにおいて「協働」が必要か？

それは、いまの時代は時間の流れが早く、それと並走するように課題も次から次に生まれており、**時代の変化に伴う課題やニーズの変化に対応しようと思っても、「誰か」だけでは到底太刀打ちできず、官も民も互いに得意分野を活かしていく必要が生じてきた**からです。それを行政の施策にするかしないかは、それぞれの自治体の考えによりますが、一関市は協働のまちづくりを施策に掲げ、取り組む選択をして今に至ります。

「協働」は一言では説明しにくいものですが、当センターで作成した協働のリーフレットに「互いの知識・関心・経験・好奇心をみんなで持ち寄って、継続的に話し合って地域を良くすること」と表現しています。さまざまな事例を通して協働を伝えるケースもありますが、事例は事例で手段でしかありません。手段や手法が大事ではないとはいいませんが、**その前段階のどんな課題があり、その原因がどこからくるものなのか、そして、どんな取り組みが必要で、誰がやるのか？と筋道立てた議論が必要**で、その**議論する部分に「協働」という手法を用いること**が現代社会には求められているため、「協働の時代」だと感じています。

センターの自由研究

ミッション 36

市内で１番段数が多い石段はどこだ！？

外を散策していると、何気なく歩くことがある「石段」。公園、山道、お寺など…意外と各地で見かける石段ですが、**数ある石段の中でも市内で１番段数が多い石段は一体どこなのか！？**気になったスタッフが聞き込みと現地調査をしてきました。

※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。多少の誤差や調査漏れ等はお許しください。

各地の石段情報を収集

「市内で1番段数が多い石段」についてスタッフが各地でヒアリング調査を行ったところ、有力候補として名前が挙がったのは山目字館にある**「配志和神社の石段」**でした。情報によると、石段の段数はなんと**４００段以上！**

この段数を超える石段がないか各地域で情報を集めましたが見つからず…。そこで、**市内で1番段数が多い石段は「配志和神社の石段」**を独自調査の結果とし、現地調査を行ってきました。

石段の数は４４６段！

神社の宮司さんに許可をいただき、下記の図の要領で、神社入り口を計測のスタート地点とし、手動式カウンターで1段ずつ登りながら段数を数えていきました。最初は緩やかな傾斜で足元も広く楽々と登ることができましたが、後半は勾配が急になり途中で息が上がるほど。

石段はきれいに清掃され、木々の木陰で涼しく、調査中には何度も往来する参拝客の方を見かけました。

ちなみに、石段を徒歩でゆっくり登ると**7分弱**かかり、片道の石段部分の距離は**約３４０ｍ**ありました。

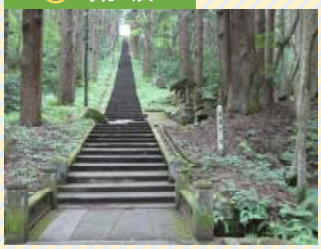
配志和神社の石段の段数は 446 段！

⑦ 本殿

10段

⑥ 境内の石段

259段



⑤ 剱坂（つるぎざか）

御神橋を渡った先には急峻な坂の「剱坂」があります。この石段を登り切れば境内に到達します。

③ 月見坂（つきみざか）

参道入口を過ぎて間もなくにある「月見坂」。杉などの木々に囲まれ、緩やかな傾斜の階段が続きます。

170段

④ 産湯が池（うぶゆがいけ）と御神橋

月見坂を登り切り、少し進むと石造りの御神橋とその左右に「産湯が池」があります。上空から見ると、御神橋の先の「剱坂」を刀身、池を剣の鍔（つば）の形に見立てることができます。

7段

① 1段目

道路に面した神社入り口の石段からカウントスタート！

② 参道入口

計測に使った手動カウンター

石段 に関わった偉人たち

石段を造った村の豪商

神社の石段が造られたのは、1687年（江戸時代前期）と記録されています。中里村の住人で木材の卸売りや鉱業の経営で財を築いた豪商の阿部随波（あべずいは）氏の寄進（※）により、それまでは土がむき出しで歩くことが不便だった参道に石段が構築されました。

その後、石段は時間の経過と共に劣化し、凹凸に緩み歩きにくくなったため、地域から募った寄付により昭和初期からコンクリート階段を整備。コンクリートの普及に伴い、明治以降は配志和神社のほかにも参道をコンクリートに整備する神社が増えていったそうです。

（※）お寺や神社に物品を寄付すること

【写真】
整備のために取り外した石段は、本殿正面の階段と石畳に再利用し、昔の名残としています。

赤荻の石工職人たち

石段造りを請け負ったのは、当時赤荻村にあった石工屋さんだと伝えられています。「山目史」によると、天明（1781年～1789年）の頃に京都から落ちのびた石工の隠れ職人が赤荻の屋敷に仮泊した際、付近の山を探索したところ良質の石が多くあることを発見。以後、職人は赤荻に定住し、地元の方々に石工の技術を伝え、職人を育成。当時は「赤荻の石工集団」として地域に名を馳せたそうです。

当時の赤荻の石材は、両磐地域をはじめ、遠くは出羽三山（山形県）の石段にも利用されたと伝えられています。

トラックや重機などがなく、石の移動は全て人力だった昔。石工職人達はできるだけ少ない力で石を運ぶため、目に触れない石の内部をこっそりと削り、石の重さを軽くして運んでいたという裏話も。配志和神社にある石にもその形跡が見られるそうです。
【写真】参道の途中にある石碑のひとつ

一関のコンクリート博士

今回、現地調査した石段の多くはコンクリートに造り替えられていましたが、このコンクリートに所縁のある一関市出身の阿部美樹志さんという方をご存知でしょうか？

阿部さんは明治16（1883）年に現在の磐井町に生まれ、札幌農学校を卒業後に鉄道作業局に就職。その後、農商務省海外練習生としてアメリカで鉄筋コンクリート工法を学び、帰国してから日本に初めて鉄筋コンクリートを導入しました。国内主要都市などの高架鉄橋や映画劇場、デパートなどを設計し、一関では旧一関市役所庁舎や旧一関小学校講堂等を設計。当時、一関の方は彼を自慢の心と畏敬の念を込めて「コンクリート博士」と呼び、今は一関市の偉人の一人になっています。

【写真】「勲二等瑞宝章受章記念」の時の阿部美樹志さんの写真
（「コンクリート博士 阿部美樹志伝」より転載）

調査の過程で市外の石段情報も探ってみると、日本一段数が多い石段は熊本県下益城郡美里町にある「日本一の石段（釈迦院御坂遊歩道）」で、段数はなんと3333段でした！

今回のテーマは**「石段」**でしたが、ほかにも調べてみたい「市内で1番」のテーマがあれば、今後の自由研究でご紹介していきます。

石段をよく見ると、上面が平らではなく斜めに、右端には補修したような線のある石段があります。ここは、管理者不在の時に舗装工事が始まり、後で拡幅し、直した跡なのだそうです。
【写真】参道入口付近の石段

〈取材協力〉
配志和神社　宮司　岩山芳憲さん

〈参考文献〉
①山目史を作る会（1993）『山目史』
②NPO法人一関文化会議所（2015）『一関地方ゆかりの人物事典』
③藤原忠司（2018）『コンクリート博士 阿部美樹志伝』
④配志和神社誌編集委員会（2018）『配志和神社誌』

おしらせ

イベント　摺沢水晶あんどん祭り

摺沢の商店街を中心に400余りのあんどんが飾られ、まちが幻想的な灯りで照らされます。六角形のあんどんは、水晶の産地として栄えた摺沢の名前の由来にちなんでおり、お盆にご先祖様を迎える迎え火も兼ねている伝統的なお祭りです。また、8月13日14日の夜には縁日も開催されます。

日時：2019年8月13日(火)～15日(木)
19時～21時
場所：大東町摺沢地区内
料金：入場無料
主催：あんどん祭り実行委員会
問合：0191-75-2448
(大東商工会館内)

コンサート　オペラ歌手(バリトン)　上野裕之 第3回コンサート

桜町中学校出身の上野裕之さんによるオペラコンサートを行います。今回は「愛と友情」をテーマに、オペラ(歌劇)を原語と日本語で演奏し、オペラの楽しさを皆様にお伝えしたいと思います。曲目は、歌劇『椿姫』より「乾杯の歌」、『カルメン』より「闘牛士の歌」など。

日時：2019年8月17日(土)
開場14時　開演15時
場所：一関文化センター中ホール
チケット：一般2，000円、高校生500円
中学生以下無料
チケット販売：一関文化センターほか
主催：上野裕之コンサート実行委員会
問合：090-4633-4303(上野)

イベント　いちのせき市民フェスタ19

日頃の活動を広く市民のみなさんに知ってもらう機会である「いちのせき市民フェスタ」。市民活動団体を中心に、活動紹介はもちろん、紹介を兼ねた各種体験、商品・製品販売、ステージ発表など、人・モノ・機会との出会いにあふれる空間です。いちのせき市民モデルコレクション「イチコレ」(11 時～)もお楽しみに！

日時：2019年8月25日(日)
10時～15時
場所：花と泉の公園(一関市花泉町)
料金：入場無料
主催：いちのせき市民活動センター
問合：0191-26-6400

イベント　みんなのスポーツフェスタ2019

誰でも楽しみながらスポーツを体験できるイベントです。10時からは岩渕麗楽さんによるトークショー、11時からは車いすバスケ選手によるデモンストレーションを行うほか、サッカー、ボッチャ、スポーツ吹矢、卓球バレー、サイクルタイムトライアルなどの各種スポーツを体験できます。

日時：2019年8月25日(日)
開会式　9時50分～
場所：一関市総合体育館(ユードーム)
参加料：無料(ドリンクプレゼント)
主催：(一社)一関市体育協会
問合・申込：0191-31-3111

講座　まちづくりコーディネーター養成講座

「まちづくり」とは何なのか、その考え方に触れつつ、まちづくりを担う人が知っておきたい項目(①地域福祉概論、②話し合いの仕方、③公共交通、④事業の考え方、⑤事務局のおしごと)について、全5回の講座を行います。

日時：①2019年7月27日 ※終了
②9月7日、 ③9月28日、④10月26日、
⑤11月9日 ※各回土曜9時30分～開催
場所：なのはなプラザ 4階会議室
参加料：2，000円(全5回分)
主催：いちのせき市民活動センター
問合・申込：0191-26-6400
※要事前申し込み

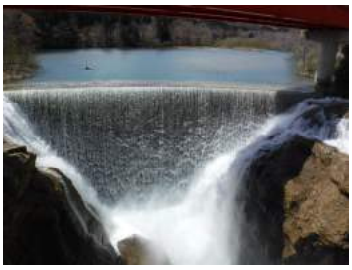
イベント　リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2019 いわて

がんサバイバー(患者)、ケアギバー(家族、友人、遺族、支援者)をたたえ、交代で夜通し公園やグラウンドを歩き続けることで、がん征圧への願いをあらたにし、絆を深め合うチャリティーイベントです。収益金は日本対がん協会に寄付し、世界中のがん患者支援のために役立てられます。

期間：2019年8月31日(土)13時～
2019年9月1日(日)12時
場所：一関遊水地記念緑地公園
(一関市総合体育館そば)
主催：実行委員会
問合：0191-21-0554(一関病院内)

まちの写真展　スタッフがまちの１コマを切り取ります。

作品名「マイナスイオンを求めて」



国道３４２号線を真湯－須川方面へ向かう途中に見えてきたのは、磐井川の水を湛(たた)える矢櫃ダム。滝の間から見える大きな岩と水のカーテンが創り出す光景は、思わず息を飲みこんでしまうほどの美しさと迫力がありました。

Q&A　みなさんの「知りたい」にスタッフが応えます。

NPOは非営利だから利益をあげてはいけないの？

「非営利」とは利益をあげてはいけないというイメージが強いですが、そうではなく、利益があがっても構成員(社員、役員など)に分配せず、団体の目的を達成するための費用に充てることを意味します。

つまり、団体がサービスを提供した場合に、対価を得て売り上げをあげても、そこから経費を差し引いて、残った利益を団体の構成員に分配しなければ非営利組織といえます。

idea
発行 いちのせき市民活動センター　〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415 ホームページ：https://www.center-i.org/ メール：center-i@tempo.ocn.ne.jp
せんまやサテライト　〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736